

投稿される方へ

日本爬虫両棲類学会は、機関誌としての Current Herpetology (英文誌)に加えて、爬虫両棲類学会報 (Bulletin of Herpetological Society of Japan) を刊行する。爬虫両棲類学会報は、会員間の親睦、情報交換、連絡通信を目的とした和文誌で、報文、総説、一例報告及び書評など、自由な内容の他に、英文誌に掲載された論文の和文要約、大会

講演要旨、学会記事などを掲載する。この他、査読を必要とする原著論文も、和文テキストでの公表を希望する場合には投稿を受け付ける。

爬虫両棲類学会報へ投稿される方は、体裁について最新号を参照のうえ、以下の投稿規定に従って原稿を作成されたい。

爬虫両棲類学会報投稿規定

(1999年2月29日制定, 2008年3月31日改定, 2011年3月31日改定)

1. 投稿資格

投稿原稿の著者は、本学会会員に限らない。投稿される原著論文、報文の原稿は、原則として未発表のものとするが、とくに有益と認められる場合にはその限りではない。

2. 著作権

爬虫両棲類学会報に受理、または掲載されたすべての内容の著作権は日本爬虫両棲類学会に帰属する。図表の転載には学会の許可が必要である。

3. 原稿受付

原稿は投稿規定に従って準備されたものを受け付ける。条件に反する原稿は書き直しをお願いする。また、投稿内容が当会報に相応しくないと編集委員会が判断した場合は、掲載をお断りすることがある。なお、投稿手順や報文の書き方を解説した投稿ガイドが当学会のホームページ (URL は本誌表紙裏参照) に掲載されているので、確認してから投稿する。

4. 査読

投稿された原稿のうち、原著論文については、編集委員会が指定する複数の識者の査読を受けるものとする。原著論文としての扱いを希望する場合は、原稿提出時にその旨申請する。なお、原著論文は掲載時に受付日と受理日が明記される。

5. 用語と頁数制限

投稿原稿は和文とするが、図、表の説明には英文を加えることが望ましい。投稿原稿の長さは原

則として、刷り上がり 20 ページ以内とする。これを超過するものについては、編集委員会が認めた場合、あるいは超過ページ印刷代の全額を著者が負担する場合に限り認める。

6. 原稿の部数と提出方法

投稿にあたっては論文の原本 (本文、図、表など一切を含む) と、明瞭なコピー 1 部を送付する。また可能な限り、原稿と正確に同じ内容の入った電子媒体 (CD-R または USB メモリー) を同封する。電子媒体に記録するファイルの形式は、テキスト形式、またはマイクロソフトワードの標準形式とする。なお、当会報では、編集の効率化と迅速な対応のために、E-mail での投稿を推奨する。E-mail 投稿の詳細は投稿ガイドを参照する。

7. 原稿の用紙と書き方

句読点は、. を用いる。用紙の上下左右に 2.5 cm 以上の余白をとり、行間も十分にとって十分に明瞭な原稿を作成すること。行末で綴字を分割しないこと。原稿の内容を問わず、文章は簡潔に要点を明白に記すこと。冗長な文章はさげ、必要以上の改行はしない。図や表も最小限とする。単位はメートル法を用い、生物の学名にのみ下線を引き、イタリックの指定をする。地名は理解しやすいように位置を表現し、なるべく緯度、経度を示す。脚注は表を除き、原則として認めない。

8. 原稿の構成

原稿の構成は次の通りとし、区分ごとに原稿の

頁を改める。

表紙、表紙頁、本文、引用文献、表（英文）、図の説明頁（英文）、図。

a) 表紙には和文で表題、著者名、所属機関及びその所在地（郵便番号を含む）、複数著者の場合には連絡責任者の指定、E-mail アドレス、投稿年月日を書き、原稿本文の頁数、図の説明、図、表の枚数を明記する。

b) 表題頁には和文及び英文表題、和文及び英文著者名、和文及び英文住所を書くこと。

c) 本文は、序文、材料及び方法、結果、考察、謝辞、の順序に従う。口語体現代仮名づかいとし、特殊な用語を除き常用漢字を用いる。術語もなるべく日本語とする。生物の和名は片仮名で記す。本文中での文献の引用の仕方は次の例にならう。

(例) 佐藤 (1993) や佐藤・金子 (1934) は…
…に関する研究 (佐藤, 1932a, b, 1934 ; 佐藤他, 1933) は…
…とされている (Sato et al., 1934 ; Sato and Inukai, 1935)。

d) 引用文献

文献引用の方法については最新号を参照のこと。雑誌などからの引用：氏名。年。表題。雑誌名巻(号)：頁一頁。(号は省略可。ただし、巻がなく通し番号 (No.) のみの雑誌に注意)

単行本からの全体引用：氏名。年。書名。出版社名、所在地。総頁数 (+ 図版数)。

単行本からの一部引用：氏名。年。表題。引用頁。編集者 (編)。書名。出版社名。所在地、

(例)

岩沢久彰・高沢保. 1975. ウシガエル幼生の組織学的観察. 爬虫両棲類学雑誌 6(2) : 31-38.

中村健児・上野俊一. 1963. 原色日本両生爬虫類図鑑. 保育社, 大阪. 214 p. (一部引用のときは 214 p の代わりに p. 141-143.)

国領康弘. 1979. トウキョウダルマガエル. p. 146-147. 千石正一 (編) 原色／両生・爬虫類. 家の光協会, 東京.

De Queiroz, A. and K. De Queiroz. 1987. Prey handling behavior of *Eumeces gilberti* with comments on headfirst ingestion in squamates. J. Herpetol. 21(1): 57-63.

Smith, M. A. 1935. The fauna of British India, including Ceylon and Burma. Reptilia and Amphibia. II-Sauria. Taylor and Francis, London. 440 p.

Matsui, M. 1996. Introduction. Leonhard Hess Stejneger and the "Herpetology of Japan and Adjacent Territory." p. 5-13. In: K. Adler and T. D. Perry (eds.) Stejneger's Herpetology of Japan. Society for the Study of Amphibians and Reptiles, Ithaca, New York.

9. 表

表は一つずつ別の紙に記し、上部に表 1. …と通し番号をつけ、次いで説明文を記入する。表の説明文は本文を読まなくても理解できる程度に記し、本文に記述のない内容を含めないこと。表には原則として縦罫を用いないので、横罫だけを使うよう工夫すること。できるだけ英文もつけることが望ましい。

10. 図

図はケント紙、トレーシング用紙、淡青色印刷の方眼紙などに、黒色レタリングペンまたは黒インク等を用いて明瞭に書かれたものか、鮮明にプリントされたもので、そのまま製版できる状態であればならない。原則として A4 判を超える大きな図は受け付けない。図 (写真を含む) の仕上がりサイズは、半頁幅または全頁幅になることを考慮すること。

11. カラー図

カラー図版を希望する場合は、その旨を明記し、印画紙またはそれと同等な用紙に写真を焼き付ける、あるいはプリントすること。なお、図 (写真) の製版代は原則として著者負担とする。カラー製版代を支払うことが困難な著者 (原則として、第 1 著者が学会員のみ) については、学会が当該金額を負担することがある。詳細については投稿前に編集幹事 (和文誌) に問い合わせること。

12. 図の説明

図. 1, …とアラビア数字を用いて通し番号をつけ、必ず図とは別の用紙に記す。図の説明文は本文を読まなくても理解できる程度に記し、本文に記述のない内容を含めないこと。できるだけ英文もつけることが望ましい。

13. 校正

校正は編集部の責任において行う。必要があれば、初校のみ著者が行うことがある。

14. 別刷

PDF版は無料で配布される。印刷版を希望する場合は、希望する別刷を投稿原稿の第1頁右上欄に朱書きする。印刷版は50部単位で表紙の有無を選択。別刷作成費と送料は著者負担。

15. 掲載論文原稿の返却

掲載原稿（原図・電子媒体を含む）は著者からの申し出がない限り、原則として返却しない。返却を希望する場合には投稿時に、切手を貼った返送用封筒を同封すること。

爬虫両棲類学会報への原稿送付先及び、編集に関する連絡先は下記の通りである。

〒130-8606 東京都墨田区江東橋3-3-7
一般財団法人 自然環境研究センター
日本爬虫両棲類学会 和文編集委員：戸田光彦
(E-mail: bhsj-ms-center@herpetology.jp)